

タル流し漁業導入試験

金城 宏

1 目的

昭和51年、大分県における瀬魚類を主体としたタル流し漁業技術を修得し、県下で行なわれている従来の一本釣漁業に変わる漁業としてタル流し漁具の導入を行ない、漁業の能率向上を目的として試験を実施した。

2 試験内容

タル流し漁業は、ハマダイ、ヒメダイ、メダイ、カンパチ、アラ、ムツ、ホタテ、キンメダイ、チビキなどの底魚類を対象に、漁具（タル）を流して釣る漁業である。大分県では古くから行なわれている漁法で、漁船規模は5トン前後が主体をなし、乗組員は普通3名程度で周年操業を営んでおり、経営的には小規模ながら比較的安定しているとのことである。

鹿児島からタルを注文し、漁業者の協力を得て、昭和52年7月に沖縄本島と宮古島のほぼ中間にある大九ソネへ向け試験操業に出漁したが、途中で天候が大きく崩れたために座間味村阿嘉漁港に避難し、3日間天候の回復をまったが回復せず、次年度に継続することにした。

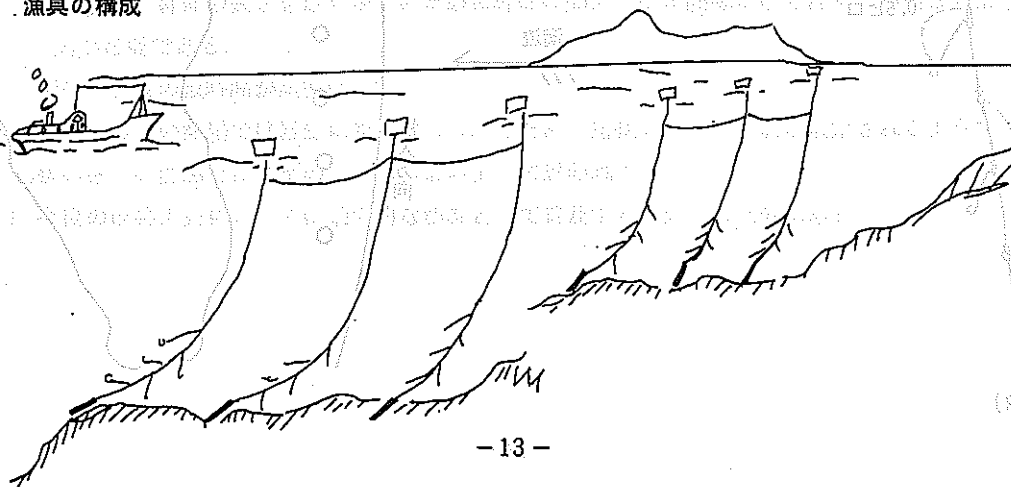
昭和53年において、漁協青年部及び漁業振興会（視察者）のメンバーの協力によって試験操業を実施した。

実施にあたっては、水深200～300メートルの漁場で、キダイを主体に伊平屋島北東の伊平屋ソ根を選定した。

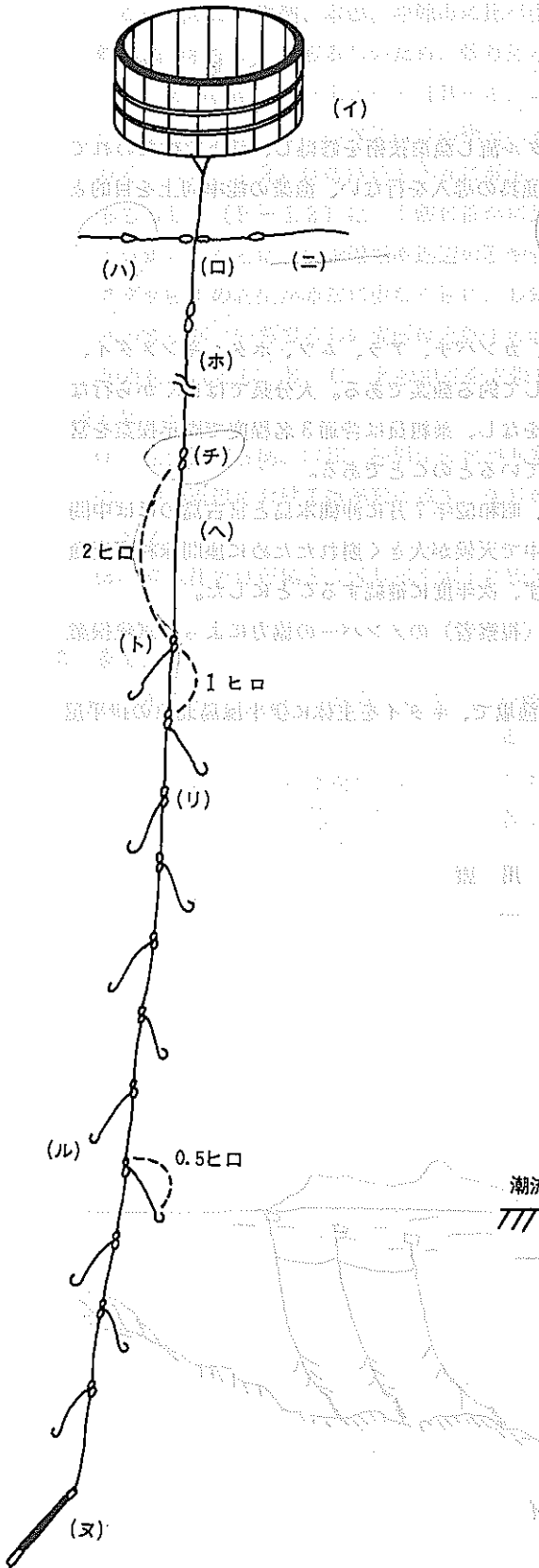
3 実施の方法

- | | | |
|----------|----------------|---------------|
| (1) 協力期間 | 糸満漁協漁業振興会 | 阿波根 用 庸 |
| | 糸満漁協青年部 | 玉 城 銀 一 |
| | 糸満漁協職員 | 上 原 隆 |
| (2) 供試船 | 盛豊丸 | 3.79 t 37 P.S |
| (3) 実施期間 | 昭和53年6月28～7月2日 | |

4 漁具の構成

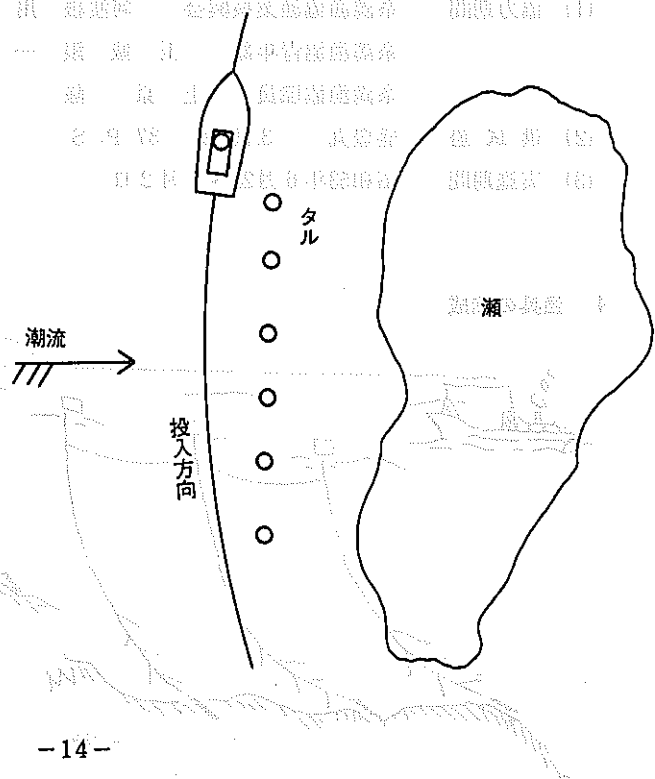


一般構成図



符号	名称	材料及寸法
(イ)	浮標 (タル)	杉50×25cm
(ロ)	浮標縄	P.Pロープ(4%)3m
(ハ)	連結用縄	P.Pロープ2m
(ニ)	連結縄	P.Pロープ
(ホ)	幹縄	スーパート30号
(ヘ)	幹縄(サガリ)	パーロン80号
(ト)	枝縄	パーロン60号
(チ)	サルカン	CBL12%
(リ)	サルカン	親子 3×4
(ヌ)	おもり	4分鉄筋
(ル)	釣針	イカタ ササ19号

漁具の投入方法



5 試験結果の概要

第1回（昭和53年6月30日）

午前4時に起き、伊平屋島田名灯台からNNE15マイルの漁場へ向う午前5時20分漁場に着く、その間、冷凍イカ丸身を釣針に餌をつけておく、朝のしらむのをまって、潮流と風向を確かめ魚操で海底を調べ水深290メートルの瀬に漁具（タル）8ケを約20分かかって投入した。40分縄まちして、約1時間25分で、縄揚げ終了、投縄から縄揚げまでの所要時間は約2時間25分、午後7時20分までに6回操業を行なった。漁獲は約60キロでキダイが8割を示し、その夜は200メートル水深で鰯をおろし沖泊。

第2回（昭和53年7月1日）

午前5時40分操業開始、表層と底層の潮の流れが逆になり縄がもったり、また岩礁に縄がかかり幹縄3ケを損失した。午後から波やや高くなり漁具5ケで5回の操業を行なった。漁獲高は約40キロ、この日も沖泊であった。

第3回（昭和53年7月2日）

天候萌れ、うねり高く、漁具（タル）みうしがちであったが午後3時までに3回の操業を行なった。操業をうちきり、午後3時すぎ帰路へ向う、7月3日午前1時糸満港へ帰港した。

漁 獲 高

（昭和53年6月30日～7月2日）

漁 種 名	数 量 (K)	単 価	金 額
キダイ（フカヤーマジク）	110	1,000	111,000
はまだい（アカマチ）	7	1,400	9,000
しまあおだい（たまみ）	15	1,510	22,650
しろだい（シルイユ）	0.3	600	180
カンパチ（ウキムルー）	3	700	2,100
ハ タ（ミイバイ）	2.1	1,250	2,625
	137.4		147,555

6 考 察

- (1) キダイ釣の場合、幹縄は斜めに低く流れたほうが魚の食いがよいので幹縄に余裕を持たせるために水深より縄は約20%程長くしたほうがよいようである。
このため、幹縄の長さを定めやすいために幹縄は50メートル間隔に取りはずしが出来るような工夫が必要である。
- (2) 夜明け前後の数時間が漁獲はよい。
- (3) 起伏の激しい漁場では岩礁に幹縄がもつれるため、起伏の少ない漁場が選定されるようで、起伏の激しい漁場では従来的一本釣がよいように思われる。
- (4) 今後の改善工夫によっては効率的な漁業として普及する可能性は充分にある。



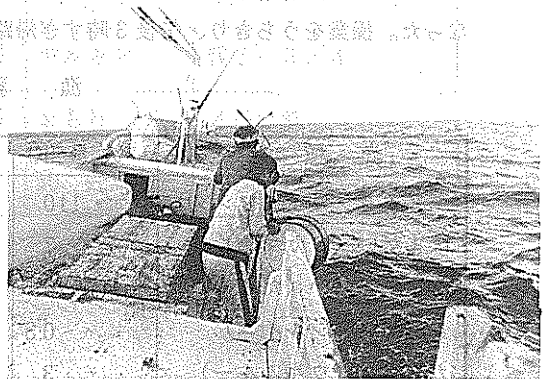
明日からはじまる試験操業の成功を祈願しまず一杯



午前6時第1回操業開始



1日目、6回操業、約60キロの漁獲でした。



投 縄



投 縄



糸満漁協での水揚